

「この新しい新しいことを、必要かどうか関係なくどんどんやりたがるわけです。でもその人の発想は使い手側の思想じゃない。僕は逆に利用者側の目線から見て「これって要らないよね、お客さん求めてないこと作ったって誰も喜ばないよ」と言っている部分は市長と同じですね。」

市長 その通りだと思います。行政なら「このサービスは誰のためのサービスで、顧客は誰なんだ」と職員に言っています。例えば幼稚園・保育所は誰のための事業か。親に楽をさせるものじゃない。子どもを立派に育てて、世のため人のために役に立つ子にするため。介護施設は長年頑張ってきた方がお年寄りになって自分のことがままならなくなった時に、その人の気持ちになって、どうしたら一番良い介護施設として喜んでくれるのかと置き換えてみる。

菊地 今回の連携協定のパートナーであるセールスフォースが提供しているのはある意味コンピュータの半熟の状態のシステムで、それに何が必要かをトッピングしながらアレンジするのが僕らの仕事です。そうすると、本当に「IT」に詳しい人たちは、半熟の状態まで作ってあるのが嫌でしょうがない。最初から全部作られた



人たちは、セールスフォースとは組みないでも、求めているのはいかに便利でみんなが快適になるもので、別に「から作ることは求めていなかったりするんですよ。だから他の「IT」企業がでなくて僕らができるのはそこかもしれないですね。」

市長 私も「半熟協議」という言い方で、市の職員に「企画して設計図を作る前に、ゆで卵にするか、スクランブルにするか、卵かけにするのか決めていない段階でどうしたいのか言ってくれ」と。手間ひまかけて出来上がった完成図を持って「これでも、今更変えようがないですからね。」

菊地 いいですね、それ使わせてもらおうかな。その状態でちょうどいいんですよ。そこからその人がほしい一番最適なものにすればいいんですから。

今回のコロナでも、国が「こんなシステム作ったからどうぞ」と言われても「いやいや市はそこまで求めてないよ」とみたいなものがいっぱいあったと思います。

今日は市長と共通の部分があったって、市の運営も似ている部分があるのかなってすごく感じました。

インフォニックス舞鶴支社

市長 なぜインフォニックスが舞鶴市を選んだくれたのか。似たようなまちは山盛りあると思います。市は舞鶴高専やKD

D、オムロンなどと連携していますが、私は、我々とタッグマッチを組むことによって、市も、住民も、企業にもメリットがなければいけないと言っています。そんな思いがインフォニックスさんに伝わって舞鶴市を選んでもらったのか、偶然我々の運が良かったのかを聞きたいですね。

菊地 オムロンは我々の取り引き先でもあるので、舞鶴市のごことは知っています。一緒に仕事をしたいと思っています。課題解決のために先進的な取り組みをされているな、と思っていた中で今回の話があったので「それなら」と動きました。

今回の提携をきっかけに、舞鶴の子育て中の女性にシステムのテスト作業を依頼させてもらったのですが、ものすごく出来がいいんです。京都とか大阪とかで



同じことをやっても、こうはならない。舞鶴の皆さんの責任感や能力を最後まで発揮するという意気込みを僕は感じました。また、高専や近畿能開大京都校など優秀な人材も豊富な地域だと思います。

市長 私もコロナがまん延する前の年から「IT」を活用した心が通う便利で心豊かな田舎暮らしをキャッチ「IT」にして、田舎を誇っていました。田舎の一番の欠点は利便性が都会よりも低いこと。いいところは自然豊かで食べ物がいっぱい、歴史や文化があって、人と人とのつながりがあるところ。田舎の良さを満喫しながらリモートで都会と同じ仕事ができる。こんないいことはないでしょう。

菊地 そうなんです。例えば販売とかだったら人口の多い都市部に行かないとできないこともあるかもしれないですけど、ITについてはコンピュータとインタ

ネットがあればどこでもできるもので、自然を満喫できるんです。

市長 市役所の仕事では、ITというのは仕事を効率良くさせて、空いた時間を機械やデジタルにはできない「市民とともに考え、解決に向けて行動する」ことに使いたいと思っています。

菊地 本心にそう思いますね。やっぱり感動できることとか、おもてなしをするということか、心を通い合おうということではできないことなので、「この時間をしっかり取って人間らしい生活をするためにITを使うべきだ」と思いますね。

市長 今後の目標は、

菊地 せっかくこんな機会をいただいたので、まずは「社員のIT企業として、種火になりたいと思っています。例えばシリコンバレーは何もない砂漠地帯で、ITとは何の関係もない場所だったんです。ただ「社来ると、とんとんそこに集まってくる」ところがあるので「IT」の専門的なことをやりたければ舞鶴に行こう、「こんな自然豊かな所で仕事をしたい」と思う人が集まるのを目指したいですね。

まずは僕らとして、もっともっと社員を増やして成功しているんだなというイメージを作ることがミッションだと思っています。まずそこを僕らとしては考えて、何年後には、赤レンガ倉庫の「ワーキングスペース」をIT企業で埋め尽くしたいと

いう夢を持っています。

市長 楽しみです。そうなると、市も協力したいと思います。今日はありがとうございました。

菊地 ありがとうございます。



【協力・場所提供】
まなびあむ(溝尻150-11)
1階 Bistoro & ☎77・8555)
4階 GATEWAY MAIZURU(☎77・8071)